

難治性褥瘡に対するケアの検証

～多職種とのチームケアを通して～

朝倉医師会 介護老人保健施設 アスピア 看護部
○岩下チヨミ 山本初美 久保山富美子 山口絵里 物部小枝子

【目的】

褥瘡発生から急激に悪化し、壊死組織を形成し難治性褥瘡に至った入所者に対して、多職種及び家族、医師会病院のWOCの協力、外科的治療を行い褥瘡が改善していった症例を経験する事ができた。

褥瘡に対する予防及び、対応には、難治性褥瘡の主な要因である不十分な除圧・ずれ対策、慢性の低栄養状態、不適切な局所治療があげられる。これらを踏まえ、今後の褥瘡ケアに繋げる事を目的とし検証を行う。

【方法】

1. 研究対象者 難治性褥瘡を発症したA氏 89歳女性
2. 検証方法 ① 1事例に対する平成28年12月31日から、平成29年12月1日までの褥瘡経過記録の検証を行う。
② 褥瘡発生の原因を考察するために、体圧測定器を用い検証を行う。

【結果】

多職種と褥瘡ケアへ取り組み、ポジショニングを徹底し、褥瘡評価を行いながら、栄養状態の改善に努めた。また、WOCと連携する事で、褥瘡切開排膿術を行ない再入所後、適切な局所処置の検討と実施を継続施行し、DESIGN-Rによる評価でも、浸出液・炎症・感染・大きさの縮小に伴い、ポケットの縮小も認めた。

発生原因と考えられる圧とずれについては、携帯型接触圧力測定器を用いて測定を行った結果、車椅子使用時の臀部にかかる圧は高く、フットレストから足を降ろす・除圧クッションを使用する等にて除圧が出来ること、また、リクライニング車椅子・ティルト型車椅子使用時、上体を起こした時にずれが生じ、結果として除圧クッションとクッションを併用する重要性が得られた。

【考察】

- ① 多職種にて連携・協働援助を行ったことで、難治性褥瘡の状態改善を図ることができた。
- ② 褥瘡発生のハイリスク者に対し継続的観察とその情報を記録し情報を共有することで早期の予防策と処置の検討・実施へと繋がり褥瘡悪化が回避できる。
- ③ 医療的チームケアを必要とするとき、看護師が多職種と積極的にコミュニケーションを図りマネジメントすることで適切な包括的援助の提供ができる。
- ④ 圧やずれの予防の為、体圧測定し適切なマットレスやクッションを選択する事が重要である。